

研究タイトル：

高齢者・難病者とその家族の療養環境に関する研究

氏名：	亀屋 恵三子 / KAMEYA Emiko	E-mail：	emiko@toyota-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	日本建築学会, 日本老年社会学会, 日本保健医療社会学会		
キーワード：	建築計画, 福祉住環境, ALS 患者		
技術相談 提供可能技術：	高齢者・患者の在宅介護環境関連		



研究内容：

1. 研究概要

高齢になったり、病気になったりすると、自分の住んでいるところにそのまま住み続けるか、適切なケアをしてくれる施設に移り住むか、大きな選択をする必要があるかもしれません。多くの高齢者や患者の場合、できるだけ自宅で過ごしたいという願望を持ちながらも、「見てくれる人がいない」、「家が狭くて療養できない」などの理由で、最後まで住み続けられないのが現状です。しかし、家族や地域の医療・看護・介護スタッフの連携、適切な療養環境を構築することによって重度の病や障害を抱えた人でも自宅で住み続けることは可能です。どのような療養環境やケア環境を創造すればいいのかを、実際の高齢者や患者さんとのふれあいを通して研究しています。

2. 研究事例の紹介

介護の場面でよく言われるのが、介護してから家族のスペースがなくなってしまったということです。つまり、本来はだんらんやくつろぎというような機能を持っていた家が、「介護」というものを抱えてしまうことによって、そういった機能が消失してしまうのです。それはホームヘルパーなど、外部のケアスタッフが多く介入するほどみられる家族の精神的な介護疲労です。それをどう空間の仕掛けによって改善できるかが主な研究テーマとなっています。

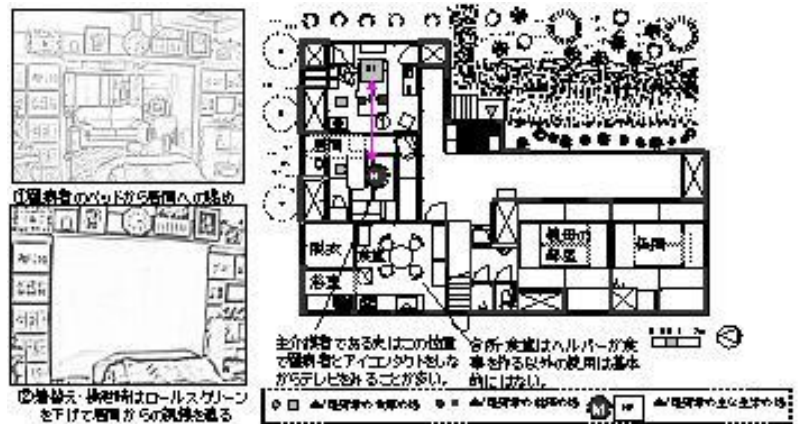


図 療養環境の事例

図は、実際に調査したある難病の方の住まいです。この方は家族介護者とアイコンタクトが取れるように環境を整えています。着替え時や排泄時、来訪者によって、間仕切り部分に当たるロールスクリーンで環境や場面を自在にコントロールしています。このような視線の環境計画は、物理的な住宅改修に加えて、多くの在宅療養環境を整備する上で重要な視点となります。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	